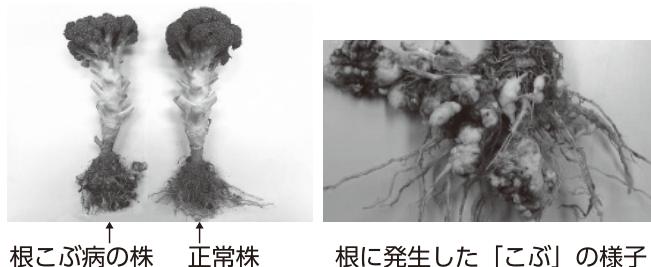


## ブロッコリー「根こぶ病」対策について

### (1) 特徴

- ・発病適温：18～25℃付近
- ・根にこぶが着生（生育停滞、しおれ）
- ・こぶによって根の維管束が圧迫され、水や栄養分が吸収されず、枯死に至る
- ・アブラナ科連作により発生が助長
- ・酸性土壌を好む

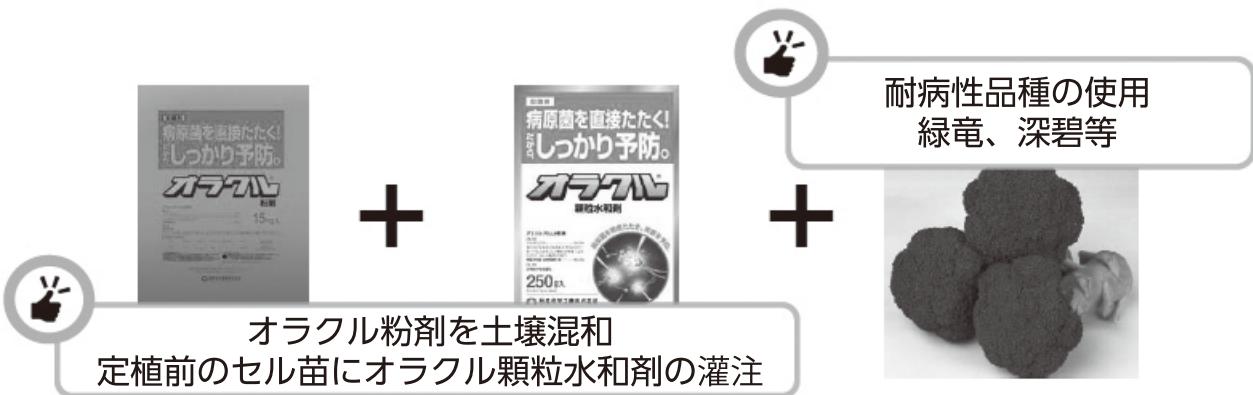


### (2) 対策

- ・排水対策をしっかり行い、過去に根こぶ病が発病した圃場では感染を助長するため長時間滞水させるような畝間灌水は控える
- ・低温時では増殖が緩慢で10月中旬以降定植かつ4月収穫できる作型は発病しにくい
- ・高pH（7以上）を目標に、石灰資材を施用しpHを上昇させる（菌の活動抑制効果）
- ・レタス類やホウレンソウ、ネギ、緑肥等と輪作することにより菌密度を低下させる
- ・耐病性品種（緑竜、深碧等）の活用
- ・オラクル粉剤、顆粒水和剤を圃場に散布し、土壤混和
- ・定植前のセル苗にオラクル顆粒水和剤の灌注

△菌密度が高い圃場では複合的に対策をしないと、発病が防げない場合があります。

<複合的な根こぶ病対策の例>



**発病状況や発生要因を把握し、適切な資材、品種を組み合わせて対策する！**